



東京六本木ロータリー・クラブ

TOKYO
ROPPONGI
ROTARY CLUB



平成24年4月2日

卓話『インドとブータン』

元在インド大使
榎印度総合研究所 代表
サン・アンド・サンズ・コンサルタンツ 代表取締役

榎 泰邦 様



昨年の11月、青年国王と若き王妃が日本を訪問して大変なブータンブームが起きました。ブータンは人口70万。私が最初にブータンに行ってから30年経ちますが、国のたたずまいは変わらず、伝統文化が見事に維持されています。民族衣装を着て、家は全てブータン様式です。ブータンにとって文化は安全保障。インドと中国、2つの超大国に挟まれたヒマラヤの国だという点を理解する必要があります。

ヒマラヤには嘗て6つの王国がありました。現在王国として残っているのはブータンだけ、国としてはブータンとネパールだけが残っています。中国とインドに囲まれてはいますが、ブータンにとって本当の安全保障上の危険はネパールです。1975年、6つの王国の一つだったシッキムがインドに併合されました。シッキムにはイギリス植民地時代にアッサム茶の労働者としてネパール人がどっと入って来て、人口比で90%になりました。ネパールはインドと同じヒンズー教で、インドからすると属国です。62年にインドと中国の国境紛争が起き、シッキムは戦略拠点になります。シッキムを併合したいと考えていたインドは、シッキムのネパール系の人たちからの求めに応じて軍を入れ、併合したわけです。

このときブータンの第4代国王はじつとシッキムで起きたことを見ていました。シッキムと同じことがブータンで起きたら人口70万の国なんか吹っ飛んじゃう。軍隊を持ったってインドと中国が相手では守りようもなく、ネパールにも勝ち目がない。そこで考えたのは、ブータンは文化的に独立した独自のアイデンティティーのある

国なんだということを必死で示すこと。それがブータン人にとっての安全保障なんです。

次にGNHです。私は2003年から07年、インド大使でブータン大使を兼任し、毎年ブータン国王に拝謁していました。昨年お会いしたとき、ブータンがGNHというコンセプトを言い始めた経緯について質問しましたが、前国王はよくぞ聞いてくれたという感じでお話しくださいました。ブータンがインドの支援で5カ年計画を作っていたとき、人口やGDPなどの統計が一切なく、これでは計画なんて作りようがないとインドの専門家から散々けなされたそうです。そこで国王は、無理して計画の形だけ作る必要はない、ブータンには自然や伝統や家族関係があり、これだけのガバナンスがあるんだから、国民のcontents満足度を尺度にすればいいと開き直り、手作りで計画を作った。その後happinessの方がいいんじゃないかということでGross National Happinessとしたというのです。当初は世界にGNHのコンセプトを広げようなんて大それたものじゃなかつたというのが実態ではないかと思います。

伝統文化や自然の美しさ、家族のつながり、いい統治の4つがあれば大体の人間はハッピーな状況になれる。ブータンで感じられる心の静謐さとは、そういうものだと思います。

ご静聴ありがとうございました。

